

高山議員（自民議連）

令和3年2月26日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）広島県の教育について

広島県の教育は、この20年来の是正から改革へ向けた取組や、学びの変革を目指した取組によって色々と問題を抱えているが、一定の成果が挙げられている。教育の真の成果は、時間が経ってから現れてくることを踏まえ、30年後、50年後の広島県を見据え、子供たちの未来を切り拓く力を養っていくため、今後どのような教育を行っていくべきと考えているのか、教育長に伺う。

（答）

本県では、平成10年の文部省是正指導以降、長年にわたり、教育の中立性と公開性を柱に、県民総ぐるみによる様々な改革・改善を進めてまいりました。

その結果、適正な校務運営が行われるようになるとともに、教育内容でも、「知・徳・体」のそれぞれの面で着実に成果が表れ、「教育県 広島」と呼ばれた誇りを取り戻しつつあると認識しております。

現在、社会のグローバル化やデジタル化は、急速なスピードで進展しており、先を見通すことがますます難しくなっております。

また、将来の職業についても、技術革新等の影響により大きく変化していくことが想定されております。

こうした中、これまで、本県では、全国に先駆けて「学びの変革」に着手し、課題発見・解決学習を中心とした主体的な学びを促す教育活動の推進などに取り組んでまいりました。

今後、子供たち一人一人が生涯にわたって学び続け、多様な人々と協働して、新たな価値を創造する人づくりを実現するためには、

- ・ 既成の社会の枠組みにとらわれず、直面する問題の核心を把握し、自ら問いを立て、その解決を目指し、様々な知識や情報を組み合わせて新たな価値を創造する力や、
- ・ 多様な他者への理解を深め協働・協調できる力、
- ・ 更には、進歩し続けるデジタル技術に適応し活用できるデジタルリテラシー

などの資質・能力を確実に身に付けさせる必要がございます。

こうした目指す姿を実現していくためには、学校教育の果たす役割は非常に大きく、学校の在り方を含め、様々な変化に柔軟に対応していく必要があると考えております。

今後とも、新たに策定する「広島県 教育に関する大綱」等に基づき、「学びの変革」を中心として、オール広島県で、本県教育を更に「一歩前へ」進めるための取組に果敢にチャレンジし、30年後、50年後においても「広島で学んで良かったと思える広島で学んでみたいと思われる日本一の教育県の実現」を図ってまいります。